

資源評価シート

魚種名：カワハギ（カワハギ科カワハギ属）

Stephanolepis cirrhifer (Temminck & Schlegel)

1. 生態的特徴

カワハギはフグ目カワハギ科に分類される魚種で、北海道以南から東シナ海の沿岸各地に分布し、水深 100m 以浅の砂底と岩礁が混じるような環境に生息する（松浦 1984）。産卵期は春～夏で、砂底に産卵する（水野ら 2007）。幼魚は流れ藻について生活することが多い。食性は肉食性で、ゴカイ、貝類、ウニ、甲殻類など様々な小動物を餌とする（松浦 1984）。定置網、刺網、カゴ漁で漁獲され、最盛期は刺網 10～12 月、定置網・カゴ漁は 5～7 月である。

2. 資源評価の指標となったデータ

資源水準は鳥羽磯部漁業協同組合と三重外湾漁業協同組合の漁獲量を指標とした。

資源動向は県内で水揚げが多い紀北町長島地区で、刺網漁の CPUE 数値を指標とした。

3. 資源評価結果

資源水準：低位

資源動向：減少

4. 資源評価の根拠

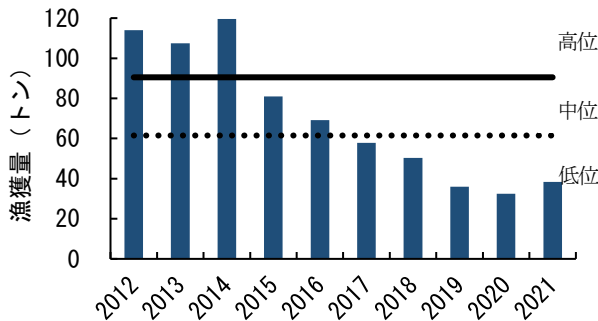


図1 鳥羽磯部漁協と三重外湾漁協の漁獲量の推移

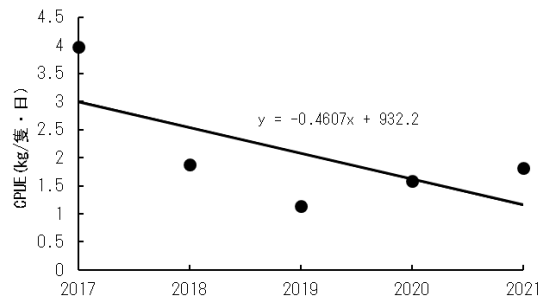


図2 紀北町長島地区における CPUE (刺網) の推移

2012～2020 年までの漁獲量の第一 3 分位点 (61.5 トン) を低位と中位、第二 3 分位点 (90.5 トン) を中位と高位を区分する基準値として判断した。2021 年の漁獲量は 38.4 トンであることから資源水準は「低位」と判断された (図 1)。また、紀北町長島地先の刺網漁における 2017～2021 年の 5 ヶ年の CPUE の回帰直線の傾きは-0.461 で、中間年 (2019 年) の推計値 2.05 で割ると年変動率は-22.47%となることから資源動向は「減少」と判断した (図 2)。

5. その他関連情報

カワハギ太平洋中・南部状況報告書 (水産研究・教育機構 水産資源研究所水産資源研究センター 2022 年 3 月) では、カワハギの漁獲量は 2014 年以降減少傾向で、近年の漁獲量の合計値は 100～150 トン程度で推移している (図 3)。ただし、漁獲量データの集計年やカバー率は県によって異なるため、注意が必要である。

*使用データ 千葉県 2015 年～、和歌山県 2016 年～、宮崎県 2020 年、その他の県は 2012 年～

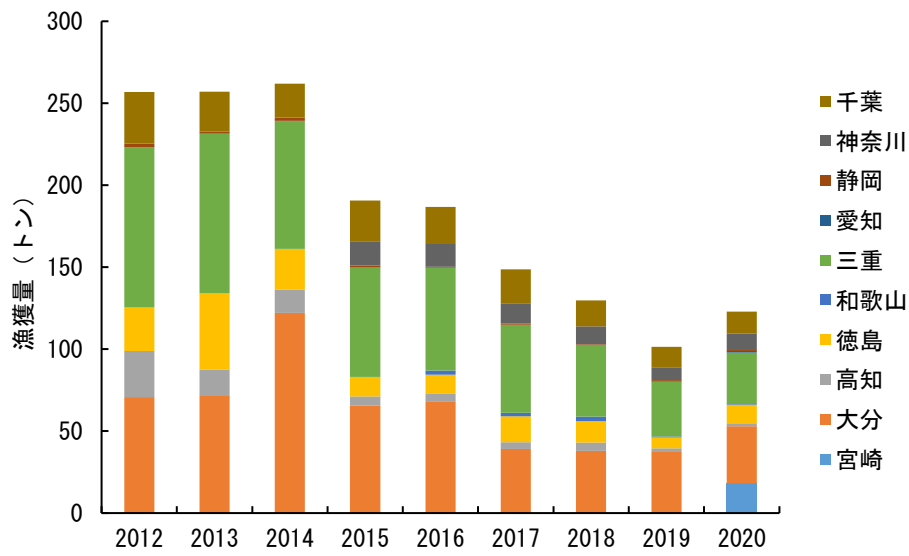


図3 太平洋中・南部のカワハギ漁獲量合計値の推移